



確かな学力の向上をめざして【6月】

■長期欠席、不登校の解決・改善に向けて

中部地区では、長期欠席、不登校の児童生徒の状況が大きな課題となっています。昨年度は、29年度に比べて小学校・中学校共に出現率が大幅に増加しました。各学校における不登校の解決・改善に向けて、現状を適切に把握し、今後の取組に生かしていきましょう。

【昨年度（平成30年度）の欠席の状況】（表中の数字は人数、%は出現率）

小学校	長欠(30日以上)	うち不登校	7日以上欠席率	中学校	長欠(30日以上)	うち不登校	7日以上欠席率
H30	87 (2.00%)	59 (1.08%)	703 (12.90%)	H30	154 (5.81%)	129 (4.87%)	398 (15.04%)

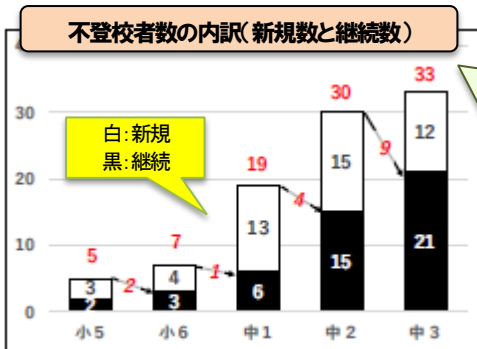


図2 学年別不登校数の内訳 千人率
生徒指導リーフ No.22(国立教育政策研究所)より

このデータは、不登校数全体における新規数と継続数の内訳についての一例です。左のグラフにおいて、小6の継続数は3人で、2人は前年度からの不登校状態が解消したことになります。同様に見ていくと毎年何人かは翌年度に不登校状態が解消しており、各学校における丁寧な関わりと支援の成果がここに表れていると考えられます。しかし、不登校が増加する原因は、その復帰数を上回る新規者がいるからであり、中部地区でもこれと同じ状況があります。不登校を減らすには、いかに新規者数を減らしていくかがカギとなります。



でも新規数を減らす取組って、どういことをすればいいの？

1つの方法として、スクリーニング会議を活用した取組が考えられます。全児童生徒を対象に実施することで、客観的なデータに基づいて不登校の兆しや可能性のある児童生徒を早期に発見し、適切な対応につなげることができます。状況が深刻化する前に支援を開始することが重要です！



取組	対象	取組の方向性	具体的な内容
新規数に着目した取組	すべての児童生徒	不登校が生じないような魅力ある学校づくり（未然防止）	「絆づくり」「いじめのない学校づくり」など、安心・安全な学校づくり
	上記のうち、何らかの兆しが見えた児童生徒	個々の状況や課題に応じたそれぞれのニーズに寄り添った支援（早期発見・早期支援）	スクリーニング会議、ケース会議を活用したアセスメントとプランニングに基づく個に応じた支援
継続数に着目した取組	前年度不登校であった児童生徒	社会的自立をめざす多面的な支援（学年・学校種をまたぐ組織的・継続的な支援）	医療機関、適応指導教室、児童相談所等の専門機関との連携・支援（自立支援）

Point

不登校を「新規」と「継続」に分けて捉え、それぞれの実態に合う取組を充実させましょう！



県では、各学校での分析・支援に生かすために以下のものを配布しております。ご活用ください。

- ・ケース会議マニュアル
- ・スクリーニングシート
- ・不登校分析シート